

未経験の若者男女に情報を 庄司担当が東京マラソン「参戦」

広報調査委員会委員長 福山裕治



冬が過ぎ、桜咲く春がやってきました。今年も、多くの新社会人がパチンコ産業を目指して入社します。昨年の会社説明会では、市場規模と遊技人口の減少が常に話題の中心になりました。内定者の5割以上はパチンコ未経験者であり、「業界を知らない」という現状の中で正確な情報を伝えることが求められます。広報調査委員会ではパチンコ業界全体の理解促進のため、ホームページ上に「業界データ」というコンテンツを新設する準備を進めています。遊技業界では、官



東京マラソン参加の3人組はご機嫌
(左から西村理事、庄司副会長、岸野理事)

公庁をはじめ各業界団体、企業各社の調査研究による業界データが数多く発表されています。日遊協を通じて遊技業界の活動を、パチンコ業界の情報を求める人にわかりやすく伝えるためのポータルサイト（情報の玄関口）を目指しています。今年も就職活動で学生の中には「業界の暗いイメージ」を懸念する意見があります。「児童車内放置」「広告宣伝規制」「パチンコ依存問題」「社会貢献活動」など、質疑応答は多岐にわたります。特に、最近ではパチンコ経験の少ない学生が多く、入店したことがない学生も少なくありません。また、女性社員の採用も増加傾向にあります。

平成22年において、民間企業の管理職の割合（課長相当職）は7%が実情です（内閣府調べ）。パチンコ業界に様々なタイプの女性上司が登場することで、店舗の意思決定に女性が関わり、新たな商品やサービスを生かすことが不可欠だと感じています。パチンコ未経験の学生や両親には、パチンコに携わる仕事の楽しさを少しでも伝えられたら、遊技人口の減少に歯止めをかけることに繋がると思っています。また、内定者研修後の懇親会は業界や企業を理解してもらうための大事な集まりになります。あの学生は、大学ゼミの「パチンコ依存の研究」を進める中で、もっと情報がほしいと相談してきました。パチンコ依存問題の相談機関である、「リカバリーサポートネットワーク(RSN)」を紹介することで、業界活動を理解してもらえ、きっかけが生まれました。



現在、副支部長を務める日遊協九州支部では、昨年からスタートさせている支部会員情報共有のための「オープン執行会」と、多彩な講師を招き開催している「会員勉強会」を新年度も継続させて、支部あるいは九州の遊技業界が抱える諸問題について、支部役員と会員が意見交換をしています。さて、広報調査委員会から、もう一つの話題をお伝えします。去る2月24日に3万6228人の老若男女が走った「東京マラソン2013」が開催されました。我が広報調査委員会からは、担当の庄司孝輝副会長が岸野誠人、西村拓郎両理事とともに勇躍参加しました。両理事は完走しましたが、還暦を前にしての初マラソンだった庄司さんは、残念ながら20kmを越えた地点でのリタイアでしたが、何か月も前から練習を重ねた成果を発揮したと言えましょう。「走る人、支える人、応援する仲間の一体感を感じた。もっと練習を積んで再チャレンジしたい」という意気込みに頭が下がる思いです。「本当にお疲れ様でした」新年度を迎え、これからも様々な目的のもと、始まりに関わる人たちの多様な接点を持つことにより、日遊協の活動をより多くの方に広報していきます。